

被災地生協の役職員の皆さんに、これまでに力を入れた取り組みや、今後の地域復興にかける思いについて声を寄せていただきました。



いわて生協
ペルプ西町店長
はまだがずゆき
濱田 一之さん

移動販売で居場所づくり

震災後の早い時期から、店を前の状態に戻そうと心掛けました。5月には母の日のメニュー提案も行ない、組合員さんからは「西町店は震災前と同じ雰囲気落ち着く」と言ってもらえました。これまでは待ちの姿勢でしたが、今後は移動販売の拠点として被災地に出向き、ホッとできる場所づくりを目指します。



いわて生協
コープ関コルザ店長
すずき まとし
鈴木 智さん

岩手産わかめを全国に

本部から遠いこともあり、震災直後は入荷が難しかったため自主的に生鮮品を集めて販売しました。今後は、沿岸部で被災された取引先の商品に力を入れ、岩手産の「わかめ」などを全国に紹介したいと思います。併せて、移動販売やボランティアを通じた職員教育も推進していきます。



みやぎ生協
東支部
なかがわ ともひこ
中川 朋彦さん

仮設住宅の利用が増加

カタログは5月3週号ですべて震災前の状態に戻り、掲載商品も通常の点数に戻りました。震災直後の生協のお見舞い活動を見て新たに加入された方もいますし、仮設住宅に入居している高齢の方や小さなお子さんがある世帯の利用が増えましたね。



みやぎ生協
東支部サブチーフ
かんの たかし
菅野 貢志さん

常に「ありがとう」の言葉を

震災後は宅配軒数が半分ほどになりましたが、現在は引越した方を除き、以前利用していた組合員はほとんど戻っています。震災を機に大切な事もいつ言えなくなるか分からないと思うようになり、常に「ありがとう」と感謝の気持ちを言葉にするよう心掛けています。



みやぎ生協
国見ヶ丘店副店長
いとう かずゆき
伊藤 和洋さん

力を合わせて復興へ

年2回の避難訓練をしっかりと行なっていたため、震災当日も慌てずに火の元確認、組合員誘導ができました。秋口からは産地訪問を頻繁に行ない、生産者の方々と話をしてきました。今でも復興できていない地域があることを忘れずに、皆で力を合わせることを都度確認していきます。



コープふくしま
いわき支部長
(元相双支部長)
さととう てつお
佐藤 哲夫さん

さらに仲間づくりを強化

相双支部では、約4,000人いた組合員が震災3週間後には700人にまで減ってしまいました。配送トラックも11台から3台に減り、配達に行くことができない職員には仲間づくりをしてもらいました。復興支部として、震災前に戻そうを合言葉に知恵を出し切り、全国生協の支援もあり、▲800人まで挽回しました。さらに仲間づくりを強化していきます。



コープふくしま
常務理事
あきやま よしひろ
穴戸 義広さん

福島県民の不安を取り除いていきたい

当初からNPO法人放射線安全フォーラムと共に除染活動に取り組み、専門家やボランティアを募集・派遣することで、行政と地域をつないできました。今後は除染の推進と併せ、内部被ばくについての正しい情報を収集し、福島県産の食品を食べながら福島で生活し続けるために、どの程度なら問題ないレベルなのかをお伝えすることで、県民の不安を取り除く一助になればと思います。

国際協同組合年の今年は、基本に立ち返って、組合員の最大の関心事に向き合い、農協や漁協、生産者団体などと情報を共有しながら一步一步前進していきます。

日本生協連も引き続き復興支援に取り組みます



日本生協連専務理事
はぎわら たかし
芳賀 唯史

① 被災地生協の事業は特別な困難を抱えているので、引き続き事業支援を強化します。

② 被災された現地の方々に、全国の組合員の温かい気持ちや思いを届けていく活動を組織化します。具体的には「つながろうCO・OPアクションくらし応援募金」を13年3月まで継続します。第一弾として、11・2月にかけて仮設住宅への灯油支援、福島の子どもたちへの支援を行なっています。学校図書館に本を届けるプロジェクトもスタートします。

③ 今後どこかで起こり得る大災害に対し、全国の生協が協力して被災地生協を支援できる計画を作り上げます。

④ 国際協同組合年の本年は、他の協同組合、地域NPO、自治体との連携を一層強めていきます。これは「生協の2020年ビジョン」の課題でもあります。

2012年度の支援ポイントは四つです。